



新 毎 日 新 聞

12月26日(日)

2010年(平成22年)

発行所：東京都千代田区一ツ橋1-1-1
〒100-8051 電話(03)3212-0321
毎日新聞東京本社



¥4,095(税込)
SM7880202



表参道本店
オープン!

(営業時間11:00~20:00)

既存の表参道店は
2011年1月5日まで
営業いたします。

03 3833 5333
sanyo shoji co., ltd.
tokyo

NEWS

太 池 三 全 七 埼

統合失調症患者が腸閉塞

救急搬送されず死亡

東京都東久留米市で昨年2月、体調不良を訴えた統合失調症の男性(当時44歳)が救急搬送されずに腸閉塞で死亡した。救急隊は2時間半にわたって受け入れ先を探したが、13病院に受け入れられず搬送を断念した。「精神科などの専門医がない」「病床がない」などが病院側の理由だった。高齢化や自殺未遂で精神障害者が身体疾患にかかるケースが増えているが、両方の症状を診られる病院が少ないため搬送が難航している。精神と身体合併症患者を受け入れる体制の不備が浮き上がった。

(社会面)「ここを救う」

13病院に要請

東京都内
昨年2月

男性の家族が情報公開と訴える。病院は医師な請求して開示された東京消防庁の記録や家族の証言によると、男性が死亡するまで次のような経緯をたどった。

昨年2月14日(土) 20時すぎ 男性が母親に「具合が悪いから医者に連れて行ってほしい」と

22:00ごろ 東久留米市消防本部(現在は東京消防庁に編入)の救急車が自宅に到着

22:40 母親の呼びかけ

翌15日(日) 1:10

心身合併症 減る受け皿

13カ所目の病院に受け入れを断られ、搬送を断念。救急隊は容体に変化がないとして3次救急医療機関には受け入れを要請せず、男性を自宅へ運び入れる。

9:00ごろ 母親が同じ消防本部に「病院を探してほしい」と連絡し、消防も探したが見つからない。その後、父親が男性の通院先の精神科病院へ行き、治療を頼んだが「休日に対応できない」と断られる。両親はほか

2次救急医療機関



入院が必要な救急医療機関。

脳卒中などで命にかかわる救急医療機関(救命救急

東京都東久留米市一ツ橋1-1-1

幸府で衝突事故 に転落7人死亡

ノコン由業温暖化冷媒影響大
国高校駅伝きょう号砲

ギョアSP 浅田首位

玉の公立中学で「偏差値」復活

241513 3 25

速報更新 | 毎日 | mainichi.jp

TOPICS

予算案 エコノミストの評価 6

政府の11年度予算案に対して、エコノミストからは、経済成長への配慮を評価する声もある一方、「景気底上げ効果は乏しい」との指摘も。

北方領土 発言で波紋 2

メドベージェフ露大統領が地元テレビで北方領土の自由経済・貿易地域化を日本に提案したと発言。ただ、「協力は島の放棄を意味しない」と改めて返還を拒否した。

質問なるほど
ボクシングの階級 3

に2カ所の病院に電話で
受け入れを依頼したが、
これも断られる

検査設備や医療機器がな
いため受け入れを断り、
検査ができる他の病院へ
運ぶよう頼んだという。

14・00 男性の心臓が
動いていないことに気づ
いた両親が119番通報
したが、すでに死亡。大

多摩地区の大病院は
救急隊から連絡があった
時、すでに他の救急患者
の治療をしていた。「対
応できるベッドが空いて
いなかった」という。

東京消防庁の記録によ
ると、救急隊員が受け入
れを請じた13病院の内訳

は▽総合病院5▽大病
院4▽精神科病院3▽都
立病院1。断った理由は

▽「専門外」（精神科な
どの専門医がいな）5

による▽休日や夜間は
スタッフが少ない▽治療
後も目が離せない精神疾
患に対応するのは困難▽

このうち要請記録が残
っていた2病院が取材に
応じ、当時の状況を説明
した。

【江刺正壽、奥山智二、
堀智行】

で入院治療する。精神障害者は自覚
症状が乏しかったり、正確に伝えら
れないことが多いため、2次救急医
療機関への搬送後、重篤と判明する
こともある。

多摩地区の精神科病院

【江刺正壽、奥山智二、
堀智行】

総合・大病院の精神科病床

報酬低く撤退相次ぐ

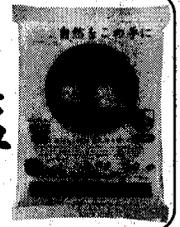
搬送困難例を解消す
された面もあるが、合
併症になった精神障害
者の搬送が最も難しい
状況は変わっていない
い」と話す。精神疾患患
者の多くは暴れたりせ
ず、救急隊は総合病院
や大病院でも受け入
れが可能とみている。

「選定困難事例」とし、
地域ごとに指定した病
院が患者の受け入れを
調整したり、自ら受け
入れに努める「東京ル
ール」を導入した。

都によると「選定困
難」に該当したのは今
年10月末までの1年2
カ月間で1万4105
件に上り、うち精神疾
患や薬物中毒（大半は
過量服薬による自殺未
遂）が理由になったケ
ースは1766件で全
体の1割を超えた。

東京消防庁の担当者
は「精神疾患があるう
ち、搬送困難の大きな要
因だ。不採算部門とし
て精神科病床が廃止さ
れていくうえ、精神科
医が外来や入院患者の
診察に追われて疲弊
したり、精神科病院に

自然をこの手に
赤穂の天塩
天日塩(オーストラリア産)と
にがり国内製造



遺族「どうして心の病というだけで」

救えた命では

精神疾患患者 13病院受け入れず

「心の病を抱え、今は苦しまずに逝ったことが幸いだったと思ふ」。10月下旬、東京都東久留米市で精神疾患を理由に救急搬送で亡くなった男性（当時44歳）の自宅を訪ねた。「救えた命だったのでは」。私たちの問いかけに父親（71）と母親（71）は当初、報道されるのをためらった。あの日からまもなく2年。表札には長男の名前が残る。20年間、病に悩んだ息子の死をどう受け止めればいいのか。両親の心は揺れ続けてきた。

【堀智行、江刺正嘉】

救う

09年2月14日夜から15日未明、東久留米市の住宅街で救急車が赤色灯を回しながら立ち往生していた。いつに

なっても受け入れ先の病院が見つからない。搬送をきらめ自宅に戻すことになった。大丈夫よね」。母親には長男が眠っているように見えた。だが救急隊員は「命の保証はできません」と告げた。母親が長男の異変に気づいたのは23歳の時だった。アルバイトから帰ってくるや突然母親に食ってかかった。「なんで後をつけてくるんだ」。おとなしい性格で、口げんかした記憶もない。心配した両親が精神科病院を受診させると統合失調症

と診断された。「おれ、早く治さないと」。長男は担当医の勤

めで事務の仕事にも就いた。だが薬を飲むと頭がもうろうとし、欠

勤が増えた。薬を抜き仕事が続けたが、今度のは幻覚や妄想に悩まされた。精神科病院へ入院を繰り返して、10回以上転職した。30代半

ば過ぎから「もう死にたい」と言い出した。救急出動から3時間

た。「寝る前にお兄ちゃんを思い出さない日はない。お父さんも必ず、仏壇のかねを2回たたいて布団に入る。口には出さないけど悔しいと思う」

12月中旬、両親は消防の担当者から救急搬送の経緯を聞き驚いた。受け入れ要請したのは有名な大病院や総合病院ばかりだった。精神科があるのに「精神は専門外」と断った病院もあった。「どうして心の病と

精神科あるのに「専門外」とも



亡くなった長男の部屋で遺品のヘッドホンステレオを聴く母親。長男は母親が好きな演歌のカセットを入れ、よく「お袋、聴いてみよう」と勧めた。東京都東久留米市で14日、武市公孝撮影

半がすぎた15日午前1時半。救急車から降ろすと長男が一瞬、目を開けた。「お兄ちゃん」。母親が呼び掛けたが返事はない。こたつの脇に布団を敷いて寝かせ、見守った。小さい頃はリレーの選手。優しくて、自慢するくらい頭もいい子。「経理の資格を目指し一生懸命勉強して、結婚もしたかったらうに」。意識が戻らないまま息を引き取ったのは、その約12時間後だった。

1回目の命日を過ぎた頃から、両親は気持ちに折り合いをつけようとしてきた。「難しい病気だったから私たちが先に逝って息子が残ってもかわいそうだった。最後に親孝行したのかも」。取材の申し出は、その思いをかき乱すことだったのかもしれない。だが再び訪れた時、母親が言っ

情報やご意見をメール (t.shakaibu@mainichi.co.jp)、ファクス (03-3212-0635)、手紙 (〒100-8051毎日新聞社会部「こころを救う」係) でお寄せください。